

教育目標			教育方針			
1 予測困難な時代に向き合う生きる力(「確かな学力」「豊かなこころ」「健やかな体」)を育成する。 2 多様な価値観を認め合い自分らしく自身の在りたい未来を探究し、自立して生きていく力を育成する。			1 地域ボランティアをはじめ災害ボランティア等の多様な活動をおとして、ふるさと意識の醸成と協働的な学びの実現により生徒に自己肯定感や自己有用感を持たせ、複雑化・多様化した社会変化に触れることで人間関係スキルのさらなる向上をはかる。 2 基礎学力の定着と多様な教育ニーズに対応するためICTを最大限に活用し、きめ細やかな指導体制により、個別最適な学びを実現する。			
自己評価について 達成度 80%以上 A 65%以上 B 45%以上 C 30%以上 D 30%未満 E						
番号	分掌	重点目標(評価項目)	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
1		スムーズで効率よい校務の運営	① TeamsなどICTの活用を進め、職員の情報共有や情報交換をよりスムーズにする。 ② 1～3部のすべての生徒、全職員の意思疎通を図り、誰もが納得する学校行事のあり方を検討する。 ③ ICT機器の活用と入念な準備を徹底し、集会や行事等のわかりやすさと効率化を促進する。	A	①達成 毎日の職員打ち合わせや連絡、各種アンケートなど効率的に使用できた。今後も連絡やチャット機能など活用の幅を広げていきたい。 ②概ね達成 行事検討委員会の場で、次年度以降に1～3部全員参加のもの、1・2部と3部で分けて行うものについて検討を進めた。それぞれの部に属する生徒たちの状況や職員の意見も考慮し、全職員が合意形成できるよう検討を継続していきたい。 ③達成 サテライト集会は少しずつ実施方法に変化を加え、より効率的に行えるようになってきたが、どの職員でも機材の設定ができるようにすることが目標である。	・1.17の防災の集いの取組が新聞報道されていない。広報することが生徒や先生方への良い刺激になると思う。 ・在校生や卒業生のインタビューでの学校紹介ビデオでは学校内外の生活がよくわかり、「西脇北高校が本当に楽しい」という思いが伝わってきました。 ・学校全体で、生徒一人一人の多様な特性に寄り添いながら、暖かく丁寧な教育を実践されていると感じている。生徒が前向きに学校生活を送り、地域とつながる充実した教育が実践されることを期待します。 ・生徒指導部と連携し、クリーンキャンペーンの回数や、地域交流の機会を増やすことで、生徒の自己有用感や達成感を感じることに繋げてほしい。
2	総務部	広報活動の推進	① オープン・ハイスクールや学校説明会を通じ、本校の教育の特色や校外での生徒の活動内容を説明する。 ② 学校行事の紹介やホームページの更新頻度を上げることで、本校生の活動の様子を広報する。 ③ 学校紹介ポスターや西北NEWSを通して本校の生徒の姿を近隣中学校に紹介する。	A	①達成 オープン・ハイスクールでは参加者に対面で説明をしたり、現状を見てもらうことで本校の様子を理解してもらえた。学校紹介ビデオも新しくなった。 ②やや課題あり ホームページでの情報発信が遅れたり、紹介できなかったりするケースが今年も見られた。次年度以降、行事ごとに更新する担当を明確にできるような仕組みを考えていきたい。 ③達成 毎月の発行に加え、体育祭や文化祭、災害現地ボランティアの号外も作成できた。また、オープン・ハイスクールなどではまとめ冊子を作成し、学校生活における生徒の活動ぶりを紹介した。	・1.17追悼行事に参加し、生徒の皆さんが防災に対して真摯に取り組み姿を拝見した。今後は地域住民も巻き込んでさらに防災意識を高めてほしい。
3		育友会や地域・行政等との連携	① 育友会や地域の方々との積極的な交流と連携を図り、文化祭、体育祭、オープンスクール等の諸行事を実施する。 ② 西脇市や自治協議会、商工会などの協力を得て、地域交流や地域貢献に努める。 ③ 本校の活動状況に対する地域や同窓生からの意見を広く受け入れられる体制を整える。	A	①概ね達成 今年も文化祭や体育祭に多くの保護者等の方々に来ていただけた。今後さらに校外での活動に参加いただける環境を整えていきたい。 ②概ね達成 生徒指導部と連携し、昨年度の雨天中止を踏まえ、クリーンキャンペーンの回数を増やした。また地域交流の機会についても生徒指導部と協力しながら参加するイベントやボランティアについてよく検討し、地域貢献を図ってほしい。 ③やや課題あり 学校の様子をこまめに案内できるように全職員がホームページを更新し、生徒の活動を同窓生や地域の方々に伝えられるようにしていきたい。	
4		防災教育の充実	① 1.17追悼行事など、防災について地域住民と共に考える機会を設ける。 ② 防災ジュニアリーダー地域拠点校として学習会に参加し、多くの人が防災意識を高められる活動をする。	A	①やや課題あり 追悼行事、防災訓練を実施した。しかし、住民の参加や住民とともに考える場面を設けることは難しかった。 ②やや課題あり 防災ジュニアリーダー地域拠点校として学習会に参加した。しかし、防災意識を高める活動を行う場面は生徒向けのものほとんどなかった。	
5		多部制・単位制の利点を生かした教育課程の編成と運用	① 所属する部以外の授業の受講や、多様な単位修得方法(高等学校卒業程度認定試験・技能審査による単位認定、定通連携併修)を展開する。 ② 生徒の多様性に対応した特色ある学校設定科目の設定と運用を行う。	A	①達成 次年度も継続する。 ②達成 3希望者のニーズに応えるために自由選択科目を複数開講している。また必修科目の要件を複数のパターンでカバーすることができる。4卒の生徒も興味関心や希望進路に応じて選択を可能にしている。	・学力向上に向け、組織的に補習や北高検定などに取り組んでいること、また個別の支援に日々丁寧に関わっていることを評価したい。 ・学校の特色である多部制や少人数授業は大変魅力である。これからは生徒たちが理解できる教育を推進してほしい。 ・授業のユニバーサルデザイン化に学校全体で取り組まれている点は、理解度や特性が異なる生徒一人一人に配慮した教育環境づくりができており心強く感じた。また教員同志での意見交換が教育の質を高め、その成果が共有されることを期待しています。
6	教務部	質の良い授業の実施	① シラバスの作成と一般公開(ホームページに掲載) ② ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を展開する。 ③ オープンスクール(授業公開)を活用して教員の授業力向上を図る。教科の枠を超えて、多様な指導方法を取り入れる機会を作る。	A	①達成 次年度も継続する。 ②概ね達成 多様な生徒に対応するために、学校全体で授業のユニバーサルデザイン化に取り組んだ。 ③概ね達成 「ユニバーサルデザインを意識した授業づくり」をテーマに公開授業週間を設定した。自教科だけでなく他教科の授業も見学に行く形態を取り、教員同士で意見交換を行うことで授業力の向上に取り組んでいる。	
7		学習指導の効果を高める取組	① 習熟度別クラス(国・数・英)、少人数クラス、複数教員による指導(チーム・ティーチング)等を効果的に活用する。 ② 学校設定教科「コーピング」で習得した学習スキルを活用する生徒の割合を40%とする。 ③ 独自検定「北高検定」で50点以上の成績を修めた生徒の割合を 年次別、教科別でそれぞれ50%以上とする。 ④ 独自検定「北高検定」にむけた自主学習に取り組む生徒の割合を35%とする。	A	①達成 次年度も継続する。 ②概ね達成 チェックペンを使った記憶法、瞬発的に答える勉強法、声に出す暗記法などさまざまな学習スキルを学ぶ授業を行った。また、タブレット端末の活用方法を学び、さまざまなアプリを使用し学習を進めた。 ③やや課題あり 昨年度からの変更もあり、生徒からの好意的な反応も多い。しかし、検定問題の形式や内容によっては苦手とする生徒が多い場合もある。そのときには50%を割り込むことも多く、検定問題の内容をどうすべきかが課題である。 ④達成 検定後のアンケートの「事前学習の授業以外に自分で勉強をしたかどうか」という問いに対し肯定的な回答が53%であった。事前に検定範囲等を公表していることに対する効果だと考えられる。次年度以降も継続して行っていく。	
8		基本的な生活習慣の確立と校則を遵守する態度の育成	① 授業態度やマナーを改善させるルール作りと指導の徹底する。 ② 時間厳守、あいさつの励行を推進するため、あいさつ運動を年2回実施する。 ③ 生徒のスマートフォン使用時間帯を把握し、生活習慣を自ら見直す姿勢を確立させる。	B	①概ね達成 授業開始の起立と礼の指導を行い、ONとOFFの切り替えを徹底した。また、授業中に帽子や防寒具を着用している生徒、露出の多い服装をしてくる生徒へのマナー指導を行い授業態度やマナーの改善を図った。授業態度の改善のため、授業態度の悪い生徒に対して「支援要請カード」を導入し、きめ細かな指導ができるようになった。 ②概ね達成 挨拶運動は予定通り実施。(4月・11月) 遅刻の多い生徒に対しては、教職員の声掛けや面談等により、生徒の生活習慣を見直す取組を実施していく必要があると考えられる。 ③概ね達成 スマートフォンの長時間使用を改善するため、情報モラル講演会を実施するとともに、長時間利用の弊害について、定期的に注意喚起を行っていく。	・ボランティアや部活動、各種発表会等で生徒の役割や活躍の場を作り、さらに周囲から感謝を伝えてもらうことで自信を育ませる取組を評価したい。 ・アルバイトで収入を得ることも大切だが、仕事優先から脱却し、学習できるのは若者の特権であるので頑張してほしい。 ・ボランティア活動は西脇北高校の代名詞であり誇りであるので、地域コミュニティ等支援しつつ継続させてください。 ・いじめ認知件数の増加が気になります。多感な年代であり、短期間で解決できるものではないと思いますが保護者とも連携し指導していきたい。
9	生徒指導部	生徒の自己有用感・達成感の育成	① ボランティア活動に参加する生徒を増やし質的拡充を推進する。 ② 日常の全員清掃を実施し、掃除のやり方を掃除監督が指導する。 ③ 学校行事の役割の中に生徒を配置し、生徒が主体的に活動する領域を広げ、学校行事の充実を図る。	A	①達成 ボランティア活動にしっかりと取り組むことが出来た。 ②達成 生徒の達成感も得られた。 ③概ね達成 学校行事の開催においては、生徒役員と教職員とが密に情報交換を行い、学校行事に生徒達の意見が反映されるように取り組んだ。	・今年他校と合同で能登災害復興ボランティアに行くなど充実した活動をされたように感じました。他校生徒と一緒に行動することでコミュニケーション力向上にもつながると思います。ボランティアに参加する意義や大切さや大変さをいろいろな方に伝えていってください。
10		他人を思いやる心の育成	① 年3回(5月、11月、1月)のいじめアンケートを実施し、いじめの積極的認知に努め、集会等でのいじめの定義を生徒に十分に理解できるように指導する。また、いじめが確認されたときは、年次だけで指導をするのではなく、いじめ対応チームを中心として学校全体でいじめ解決に向けて組織的に取り組む。 ② 生徒の些細な変化にも反応できるよう、面談週間を設定するなど生徒とのかかわる時間を増やす。 ③ 校外巡回を定期的に行い、いつでも多くの生徒に寄り添える状態を作る。	B	①達成 積極的ないじめ認知を行う為に、年3回のいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に務めた。 ②③概ね達成 4・9月に面談ウィークを設定し、生徒と教職員との結びつきを強めた。また、校内の巡回で、一人で過ごしている生徒へ声掛けを行い、生徒と教職員が触れ合える時間を増やした。その結果、生徒の悩みに気づくことができ、市町の機関とケース会議を開催するなど、未然の事故防止に繋ぐことができた。	・4月と9月の面談ウィークで生徒と教員の信頼関係を深める取組は大変良いと感じた。 ・ボランティア活動の件数が97件にのぼるなど生徒の達成感を得られる取組が充実しており、素晴らしいと感じました。 ・支援要請カードの導入など工夫しながら根気強く指導をしていただき、効果が高まっている。
11		地域ボランティアおよび生徒の自主的な活動の円滑な実施	① Google classroomなどを用い、ボランティア活動の周知を行う。その結果として一人でも多くの生徒がボランティアに参加できるように後押しする。 ② 地域の課題を発見し、地域住民と共に課題解決に取り組む。	A	①達成 Googleフォームで応募を簡略化し、申込用紙での申し込みも並行して行い、デジタルの手軽さとアナログを合わせて生徒の背中を押すことができた。活動風景等を共有して参加への心理的障壁を下げていきたい。 ②概ね達成 生徒が企画・運営したボランティア活動に取り組んでいきたい。生徒と地域の方との連携強化をしていきたい。	・ボランティア活動を通じて、思いやりの心を育み、いじめの解消につなげてほしい。 ・ボランティア活動応募のデジタル化は生徒たちが応募しやすくなったと思う

番号	分掌	重点目標(評価項目)	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
12		インターンシップ・応募前企業見学の活用・充実	① インターンシップおよび応募前企業見学は、原則1日以上で実施する。 ② 応募前企業見学については、1人2社必ず行かせ、ミスマッチを防止する。 ③ キャリア教育としての、インターンシップと応募前企業見学への参加率100%達成を目指す。 ④ 療育手帳を持っている生徒に、3日以上インターンシップに参加するように促す。	A	①④達成 就職支援が必要な就職希望者全員に対して、長期休業中に限らずインターンシップを実施した。 ②③達成 応募前企業見学についても、2社だけでなく応募する企業すべてに見学に行くように指導し、実施した。	・保護者にとって卒業後の進路は気がかりな点であるが、個々の生徒との丁寧な関わりにより希望や見通しを持たせた指導ができていた。 ・特別な支援を要する生徒の進路については小中学校や行政との連携を図りながら研究を進めていた。 ・4年制大学への挑戦者の増加は進路選択の幅が広がり、良いことと思う。 ・就職後1年以内の離職者を複数確認されているとありますが難しい課題だと感じます。就職前に自分に合っているか見極めるのは難しいですが自分が何をしたいかを見つけ、できるだけ離職しない時間を望みます。 ・「総合的な探究の時間」や「キャリア学習デー」などを通して計画的に進路指導がなされており心強く感じた。 ・就職内定後の辞退は相手にも失礼だし、本人にとってマイナスである。ミスマッチを防ぐためにも面談を重ねてほしい。
13	進路指導部	進路ガイダンス・補習等の進路行事や進路ホームルームの充実	① 魅力アップ推進事業を活用し、大学・企業見学会等の行事を実施する中で、生徒のキャリア教育向上を目指す。 ② 進路ホームルーム計画に基づき、キャリア教育を深化させる。 ③ 各行事の事前指導と事後指導を行うことで、行事への取り組み姿勢の向上を図る。 ④ 「夏季補習」や「総合的な探究の時間」、「キャリア学習デー」を活用し、進学・就職に分けて、計画的継続的な補習を実施する。	A	①②達成 6月に全校生徒に対する進路ガイダンスを行った。就職希望者に対して7月に就職ガイダンスを前倒しで行い、就職に対する意識づけをした。 ③④ほぼ達成 総合的な探究の時間、キャリア学習デイを活用して計画的な進路指導を行うことができた。	
14	進路指導部	ハローワークや企業との連携強化	① キャリア学習講演会にハローワーク職員を招き、講演会を開催する。 ② JOBフェアや企業との懇談会に積極的に参加し、就職内定率100%を達成する。	A	①達成 7月の就職ガイダンスでは、ハローワークから講師を紹介してもらい、就職に関する心構えを聞き、面接の練習を行った。2月のキャリア学習デイでは、校内でハローワーク職員による就職にむけての準備や求人票の見方などについての講話を実施する。 ②達成 10月のJOBフェアに参加し、12月に職業体験セミナーを開催した。	
15		企業からの要望でもある資格・検定の取得を充実する	① 各教科に呼びかけ、資格・検定の取得を生徒に促し、企業の要望に応えるようにする。	B	①おおむね達成 商業関係の検定をはじめ、資格・検定試験をできるだけ受験するように促した。	
16		就職内定後の辞退ゼロや就職後の離職率の減少を目指す	① 就職内定後の辞退ゼロならびに就職後1年以内の離職率10%以内達成を目指す。	B	①やや課題あり 残念ながら、今年度、4名の離職を確認している。今年度は、離職率16.7%と10%を上回っている。要因としては、見学に行ったものの生徒本人が求めているものと就業先の業務の内容があっていなかったことがあげられる。 例) 休みの日数は多いが残業時間も多し、もともとやりたい仕事があったが家庭の状況等でやむなく就業先を決めたなど。	
17	保健部	保健安全管理・生徒の健康管理の充実	① 健康相談を随時実施し、継続的な保健管理及び保健指導を行う。 ② 学校医と連携し、健康診断で異常がみられた生徒の再受診を積極的に促す。 ③ 適切なカウンセリングの運営を行い、精神面での生徒支援につなげる。 ④ 安全点検を計画的に実施し、安全な学校環境の維持に努める。 ⑤ 生徒対象の保健講話及び教職員対象の研修(アレルギー・救急法・カウンセリングマインド)を計画的に実施する。 ⑥ 食育活動を推進する。食育講演会を実施し、食事の大切さを教える。	A	①概ね達成 全校生を対象に保健管理及び保健指導を継続的に行った。 ②概ね達成 健康診断で異常が見つかった生徒への再受診を促すことができた。 ③達成 必要な生徒へのカウンセリングの活用は生徒支援につながった。 ④概ね達成 計画的な安全点検を実施し、安全な教育環境が維持できた。 ⑤達成 生徒対象の保健講話、教職員対象の研修も例年通り実施できた。 ⑥達成 食育HR・食育講演会を実施し、生徒の食に対する意識を高めることができた。	・高校生にとって性教育や食育についての指導は重要であるので、これからも講演会を計画的に実施していただきたい。 ・命の大切さとともに、成長期にある生徒達に食育指導を継続してくだい。 ・健康相談を通じて一人一人の健康管理を継続的に実施している点を評価したい。健康診断で検査が必要な生徒への呼びかけなど今後お願いしたい。
18		生徒が抱える保健課題に組織的に対応する	① 生徒の心身の健康課題について、タイムリーに情報を発信し、共通理解のもとで解決に努める。 ② 各生徒が抱える健康課題に応じて、関係する教員と情報共有し、改善に努める。	A	①概ね達成 感染症に対する対策や危険を予測できるようにその都度、保健だよりや集会で適切な情報を生徒に発信することができた。 ②概ね達成 関係する教員と情報を共有し、組織的に改善に努めることができた。	
19	特別支援教育部	特別支援教育の充実	① 実態の把握(療育手帳やサポートファイルを持って入学している生徒の実態把握や、中高連携シートや発達障害の疑い等、気になる生徒に対しても担任や教科担当者よりリストアップし、職員全体で共通理解をする。 ② 支援が必要な生徒に対して、年次を中心とした職員、特別支援教育部、キャンパスカウンセラー、特別支援教育コーディネーター等の共通理解を図る。 ③ 生徒本人と保護者と連携を図り個別的教育支援計画を作成する。 ④ 適宜、部会を開き、合理的配慮等の対応を検討する。	A	①②③④達成 取組内容通りに実施することができ、生徒の今後についても継続していく。特に、本人・保護者の将来に関わってくることであるので丁寧に対応し、進めていきたいと考えている。	・特別な支援が必要な生徒に対し、全職員できめ細かな指導や支援をされていることを評価したい。計画的に職員研修を行い、中学校や保護者とも粘り強く連携に努めてほしい。 ・療育手帳所持者が増加する中、誰もがストレスを感じないよう連携を図ってください。 ・支援が必要な生徒が想像以上に多く、多様な生徒に丁寧に向き合う教育の重要性を改めて感じました。
20	特別支援教育部	支援が必要と思われる生徒に対する進学・就労支援	① 中学校からの引き継ぎや市町役所福祉課、支援相談員等と連携を取りながら、必要に応じて特別支援学校のセンター的機能を活用して、ケース会議を開き支援についての助言を得る。 ② 専門家を招聘して、専門性向上のための職員研修会を実施する。 ③ 就職希望者で職業評価を希望する生徒には、ハローワークに職業評価を申し込み、その結果について会議を持つ。また、進学・就業時には、移行支援計画を作成する。 ④ 高等学校における通級の指導を希望する生徒には、自己理解と同時に他者理解されるように、自ら困難さがわかり、必要な場面でサポートを求め、サポートの必要性がある場合に、説明する相手を選び、そして、伝えることができるように、将来社会に出てから困難さがなくなるよう、社会自立できる力を身につける。また、通級指導を希望する生徒には、個別の指導計画を作成する。	A	①達成 今年度も密に連携することができた。 ②達成 職員研修会を2回実施し、支援を必要とする実事例を検討することで、具体的な生徒への対応方法についての研修もあり、職員の専門性向上に繋ぐことができた。 ③達成 年次や進路指導部と連携しながら、職業評価を希望する生徒について対応した。 ④概ね達成 通級の指導には12名の担当者が配置され、より幅広い授業展開ができるようになっている。次年度も工夫を重ね取り組んでいきたい。課題として、受講生徒が多いため、個々の多様性に対応するために多くの職員が指導できる支援体制を作ることがあげられる。	
21		生徒が生命の尊さを実感する	① 授業や特別活動など、あらゆる学校生活を通じて、自他の尊厳を大切に育む。	A	①おおむね達成 集団で活動する学校行事やLHRIにおいて、自分と他人の違いを認め合うことができ、自他の尊厳を大切に育むことができた。	・小中学校で登校できなかった生徒がいる中で、同和問題や様々な課題について学びの機会を作っていることを評価したい。 ・昔の人間には理解しがたい事象が増えていますが、人を不快にする嫌な言動を慎むよう指導願います。 ・人権問題は大切であるので、折に触れて学ぶ機会をも受けてほしい。
22		人権尊重の基礎を形成する	① 「人権を学ぶ日」、「人権HR」、ホームルーム活動を通して、あらゆる人権課題に対して、まず「知る」ことを第一義として学ぶ。	B	①達成 人権HRや人権を学ぶ日の活動を通して、さまざまな人権課題の基礎知識を身につけることができた。	・授業や特別活動など、学校生活全般において自他の尊厳を大切にされていると感じた。 ・「ボードゲームデー」や「ライブラリーカフェ」など、生徒が図書室に足を運ぶ機会が増えたことはたいへん評価できる。 ・ICT機器の積極的活用、図書室の視聴覚機器環境の整備がしっかりとされている。 ・ICTの利用により、図書の利用の減少は致し方ないこともありません。 ・タブレットを活用できる環境整備がなされており、生徒の学習環境の充実につながっていると感じた。
23	人権・図書・情報部	図書室の読書環境を整備する	① 教科の学習や生徒の活動に資する書籍を購入する。 ② 生徒が本を探しやすいように適切に整理・配架する。 ③ 図書室の美化に努め、明るい雰囲気作りを努める。	A	①②③達成 図書購入アンケートを生徒及び教員に実施し、ニーズに応じた書籍を配架することができた。	
24	人権・図書・情報部	図書室の活用や読書活動を推進する	① 「ボードゲームデー」「レファレンス大会」などを実施することにより、生徒の図書室利用を促進する。 ② 図書だよりを定期的に発行し、生徒が読書に興味を持つような情報を提供する。 ③ 図書LHRを実施し、図書に触れ合うきっかけ作りをする。	A	①②③達成 「ボードゲームデー」「ライブラリーカフェ」「レファレンス大会」などを実施することにより、生徒がより図書室に親しみを持てるように工夫した。図書だよりを各月に発行した。また、図書LHRを実施することにより、生徒が図書を読むきっかけ作りができた。	
25	人権・図書・情報部	ICTを利用した授業づくりの推進	① タブレットを用いる等の様々な授業スタイルに対応するために、各教室の周辺機器等を整備しICT環境を向上させる。 ② クラウドサービスをはじめとする各種アカウントを整理し、教員・生徒が授業でアプリ・サービスを利用できる環境を整える。 ③ BYOD(購入・持込・貸与)端末、一時貸出端末及び指導者用タブレット端末の管理をおこなう。アプリインストールを積極的におこない、使いやすいタブレット環境の構築を目指す。	A	①②③達成 AppleTVの設置、プロジェクタの適切な配置など各教室のICT環境を向上させることができた。各種アカウントの整備や、授業で使えるアプリの配布など環境を整えることができた。生徒用端末の管理や教員用端末の管理もできており、使いやすい環境になっている。	
26		円滑な学校運営のための環境整備	① Teams、Classroom等を活用し、職員がいつでもどこでも情報共有ができる環境を整える。 ② Teams、Classroom等を活用し、生徒と学校が双方に情報交換できる環境を整える。 ③ 校務用端末の入れ替え、NAS(share)の入れ替え等を定期的におこない、円滑な学校運営をするための環境を整える。	A	①②達成 ③おおむね達成 職員同士がいつでもどこでも業務に関する連絡ができるようにTeamsを活用した。授業でデジタルデータの配布等ができるようにClassroomを活用した。担任は、Classroomを通じて日々の連絡事項を生徒と共有した。今年度は、校務用パソコンを入れ替えなくても十分運用ができた。NAS入れ替えは、今後年度末に実施する予定である。	
27	心のサポート委員会	生徒と地域の交流機会を創造する	① 災害支援や地域支援のボランティア活動を実施する。 ② 西脇市郷土館の住民との合同防災訓練(7月)を実施し、地域住民との交流を図る。 ③ 生徒同士が協力して、地域の清掃活動を行い(クリーンキャンペーン)、生徒同士の交流を図るとともに地域への愛着を深める。	A	①達成 10月末から11月にかけて、能登災害復興ボランティアを実施することができた。 ②課題あり 合同防災訓練はできていない。 ③達成 6月には雨で中止となったが、全校生徒によるクリーンキャンペーンを2回実施でき、生徒間および地域の方々とも交流することができた。	・生徒の行事での役割や活躍の場を設定することで自己有用感を高められている。今後も生徒一人一人の関わりを大切に、指導いただきたい。 ・学校紹介ビデオを見て笑顔が伝わってきました。生徒たちに今しかできないことへの挑戦の心を育成してください。 ・ホットスペースを活用し、問題行動や生徒の孤立化を防ぐことができていた点は評価できる。地域と合同の訓練が実施できていない点について、今後の実現を期待します。 ・災害ボランティアやクリーンキャンペーンで生徒間交流、地域貢献ができ、自己有用感や地域への愛着心を育むことができてよかった。
28	心のサポート委員会	生徒と教員の交流機会を創造する	① 学校行事などを通して生徒と教員が交流し、絆を深める。 ② 各部の連携と北高ホットスペースなどで声かけ運動を実施し、問題行動や生徒の孤立化を防ぐ。 ③ 年度当初に面談週間を設定し、複数の教員が生徒と面談を行い、生徒が教員に相談できる環境づくりに努める。	A	①達成 体育祭、文化祭などでは生徒が教員といつも以上にコミュニケーションをとることができた。 ②達成 ホットスペースでの声かけや日頃の校内巡回を実施することで、生徒の変化や孤立化を防ぐことができた。 ③達成 4月と9月に面談週間を実施した。いろいろな教員が面談を行うことで、生徒理解を深めることができた。	
29		外部機関との間に交流機会を創造する	① 「自殺予防に生かせる教育プログラム」「いじめ防止プログラム」活用する。 ② 各年次、各部と情報共有と共通理解を図り、必要に応じては外部機関と連携を取る。 ③ 職員研修会において講演会を実施する。	B	①達成 兵庫県や教育研修所などの提案するプログラムを活用し、教員の資質向上や生徒への対応力の向上を図った。 ②達成 定期的に全職員対象に情報交換会を開き、情報共有を図った。また行政や外部機関との連携を取り、個別の支援にも力を入れた。 ③達成 保健部など他の部署とも連携し、カウンセリングマインドや生徒理解に関する研修機会を設定できた。	
30	事務室	環境負荷軽減の推進	① 光熱水費の適切な使用を図る。 ② 紙の使用量を削減する。 ③ 環境配慮型製品の購入及び物品の長期使用を呼びかける。	B	①達成 今後も無駄のない適切な使用に努める。 ②概ね達成 会議資料のペーパーレス化、裏紙の再利用等使用量の削減に努めた。 ③概ね達成 引き続き環境配慮型製品の購入を通じ、環境負荷軽減に努める。	・外部との対応がいつも丁寧で的確である。 ・水道光熱費、紙使用量削減など限られた予算内で効率的に運営されている。また、施設設備の定期的な安全点検を実施されており、充実した学習環境の維持に大きく寄与されていると感じる。
31	事務室	施設・設備の点検及び校内環境の整備・美化の推進	① 施設・設備の定期的な安全点検及び整備を行う。 ② 樹木の剪定等の美化の推進を図る。 ③ 未来を担う高校生等の部活動等応援事業を有効に活用する。	A	①概ね達成 定期的な安全点検を実施するとともに、予算執行が可能な範囲で整備を行った。 ②概ね達成 引き続き校内環境の整備・美化に努める。 ③概ね達成 故障した楽器の更新等を行い、部活動の充実を推進した。	
32		接遇の推進	① 来校者への挨拶及び丁寧な窓口対応を心がける。 ② 自動音声応答電話導入に伴う適切な電話対応を心がける。	A	①②概ね達成 引き続き接遇の向上に努める。	